

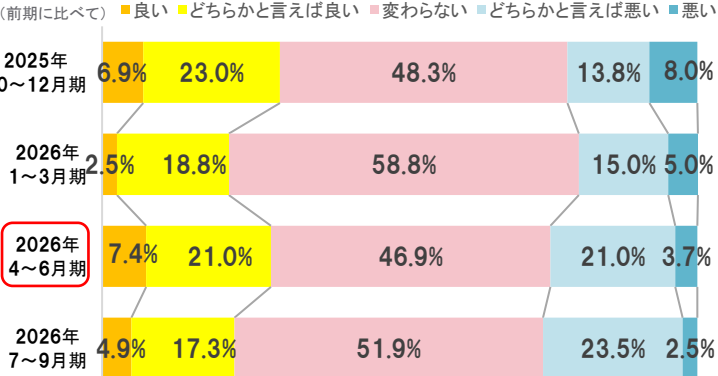
神戸商工会議所 経営経済四半期動向調査（2026年4～6月期）調査結果

●調査対象 神戸商工会議所会員81事業所／対象104事業所
●調査時期 2026年6月1日～17日

●調査内容 1～2：定期調査 / 3～4：付帯調査

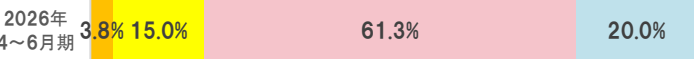
1. 各社の業況について

◆今期(4～6月)は、「良い」・「どちらかと言えば良い」が7.5ポイント増加し、約3割を占めた。一方、「どちらかと言えば悪い」・「悪い」も3.8ポイント増加し、2割強を占めた。一部に持ち直しの動きが見られたものの、二極化が進んだ傾向が見られる。
◆来期(7～9月)の予測は、「良い」・「どちらかと言えば良い」が6.3ポイント減少し、改善を期待する声は限定的である。



前期との 比較 1～3月 →4～6月	良い / どちらかと言えば良い		どちらかと言えば悪い / 悪い	
	21.3%→28.4%	+7.1	20.0%→24.7%	+4.7
主な 業種	ホテル、観光サービス、旅行、金属被覆、彫刻業、電気機械製造など		印刷、食品加工、商店街、菓子・パン製造販売、ファッション小売など	

(参考) 前回調査時 2026年4～6月期 予測



2. 各社・業界での特徴的な動きなど

(1) 中東情勢による影響について

①資材の調達難・受注・納期への影響

- 包材の調達を見込めず商品供給がないため、積極的な営業が困難。【食料・飲料卸売業】
- ナフサ関連の包材の価格高騰により新規包材を発注ストップ。【菓子製造】
- ナフサ等を原料とする、食品トレイや包装ラップ、ニトリル手袋等の値上げ。調達見通しが不透明となっている。【各種食料品小売業】
- 潤滑油の一部受注停止やナフサ不足による塗料の供給不安がある。【貨物運送取扱業】
- シンナーに関してはやはり品薄で見通せない状態。【油脂加工製品・石けん】
- 塩ビ管の入手が困難になっているが、代替の施工方法で対応できている。【電気工事】
- 中東情勢が工期や材料の価格、納期に大きく影響している。【一般土木建築工事業】
- 副資材の調達難により見積作成ができず、受注活動に支障が出ている。【印刷】
- 発注者に工期の延長、資材の値上げ等を理解を得るのが難しい。【設計】
- 建築資材が入手できず、新棟建設が遅延し、設備を納入できない。【電気機械器具卸売】
- 建設資材の高騰や納期不確定等で工期内竣工に苦慮している。【総合建設】
- LED照明器具は全国的に取替工事の発注量が多いため、納期が遅延している。【電気工事】

②資材・エネルギー等の価格高騰

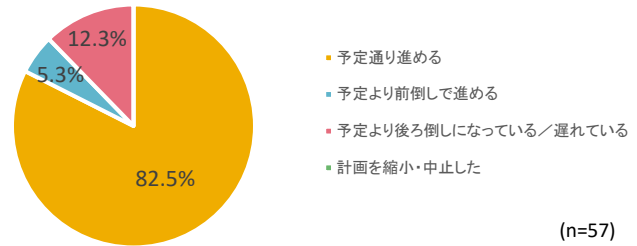
- 中東情勢による資材調達コストの大幅高が経営を圧迫し始めている。【靴】
- 海洋資源枯渇や原価高騰で仕入価格上昇が止まらない。【食料品小売】
- 接着剤等の値段が上がリ、商品販売価格に転嫁せざるを得ない状況。【婦人靴製造】
- 円安の影響もあり原材料・燃料費の高騰が利益を非常に圧迫している。【菓子製造・販売】
- 燃料価格が今後も不安定な状況により先が見通せない。【運輸】
- 材料の入荷はもちろんのこと価格の高騰で、協力会社からの見積り徴収が困難。【総合建設】
- 物価高騰に伴う食材費の急騰、船舶運航における燃料費の高止まりが課題。【観光サービス】
- 原材料価格の上昇、エネルギー費用や保管費用、運賃の上昇等により、価格転嫁をしなければ、業績悪化に直結する事象が増加している。【食品製造】

(2) その他(人手不足・採用、消費動向、金利、日中関係等)

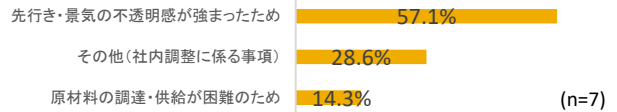
- 神戸空港国際化でのインバウンド客増の影響により、売上が増収となった。【旅館・ホテル】
- 円安、高額消費により前年プラスを維持しているものの、日中関係悪化により客数は依然マイナス基調となっている。【百貨店】
- 金利上昇による支払利息の増加への懸念。【総合商社】
- 技術者・技能者とも応募者数が少なく、採用にいたる確率も下がっている。【土木工事】
- 中東情勢の影響で海外旅行不振化。日中関係悪化により中国からの訪日客減少。【旅行】
- 飲食店での消費税率引き下げのタイミング、どのように行われるのかに注目している。【食堂・レストラン】

3. 2026年度の設備投資計画について

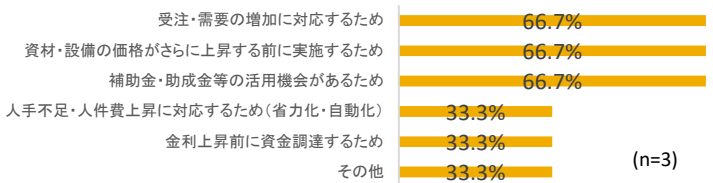
2026年度、設備投資計画を持つ企業に尋ねたところ、「予定通り進める」が82.5%と最も割合が高く、中東情勢などの影響を受ける中でも、大半の企業が設備投資を進める姿勢が確認できた。一方、少数ではあるが「予定より後ろ倒しになっている/遅れている」(12.3%)、「予定より前倒しで進める」(5.3%)と回答した企業も見られた。



【予定より後ろ倒しになっている/遅れている】と回答した企業の理由

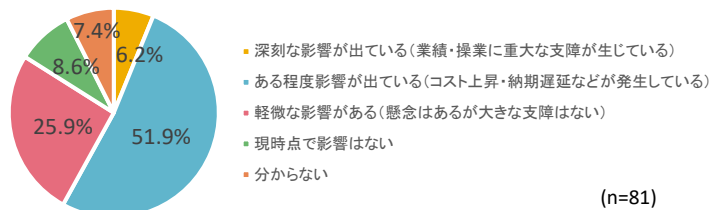


【予定より前倒しで進める】と回答した企業の理由

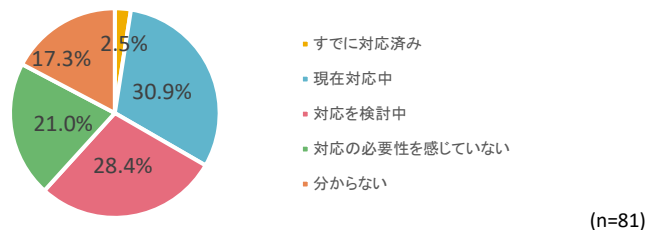


4. 中東情勢を踏まえたサプライチェーンへの影響について

中東情勢による原油価格高騰・供給不安による影響について尋ねたところ、8割以上の企業が影響を受けていると回答。業種を問わず広範囲に影響が及んでいる。



中東情勢が悪化して以降(概ね3月以降)のサプライチェーンへの対応について尋ねたところ、「現在対応中」が30.9%と最も高く、次いで「対応を検討中」が28.4%と続いた。



サプライチェーン対策として最も重視する内容について尋ねたところ、「調達先の分散・代替先の確保」が68.0%と最も高く、次いで「在庫の積み増し・物流の見直し」が22.0%と続いた。

